2013年5月31日/産経新聞

調理員、余った給食食べる　担当理事ら3人文書訓告

西宮市の17保育所

　西宮市は30日、平成14年度以降、市立17保育所で給食調理員が余った給食などを食べていたと発表した。保育所長会で「食べてはいけない」という取り決めをしたにもかかわらず、周知を怠っていたとして、健康福祉局の担当理事（53）ら3人を文書訓告にした。

　市によると、昨年9月に情報提供があり、8保育所で給食調理員が余った給食を食べていたことが判明。その後、全保育所長と給食調理員を対象にした聞き取り調査を実施し、14年度以降に計17保育所の調理員計27人が同様に給食を食べていたことが分かったという。

　13年には保育所長会で余った給食を食べてはいけないと口頭で取り決めをしたが、調理員の作業マニュアルには明記していなかった。給食を食べたという調理員が「食べてはいけないと知らなかった」などと説明したため、保育所運営を担当していた理事らの責任を問い、文書訓告とした。

　再発を防止するため、今年4月に作業マニュアルを改訂したという。

2013年5月31日／神戸新聞

給食無断飲食は27人

17保育所　市幹部3人を処分

西宮市立保育所で調理員が園児用の給食やおやつを無断で飲食していた問題で、市は30日、過去10年間で少なくとも保育所の調理員27人が飲食していたと発表した。いずれも「余ったのでもったいないと思った」などと話しているが、園児に配膳する前にあらかじめ取り分けていたケースもあったという。市は同日、管理監督を怠ったとして、健康福祉担当理事（５３）ら幹部3人を文書訓告とした。　(斉藤絵美)

無断飲食の禁止については口頭で取り決めていたが、マニュアルなどでは明記されておらず、27人については「知らずにやった行為。物的証拠もない」として処分を見送った。市によると、27人は給食やおやつ、牛乳などを飲食していた。運動会などで多くの子どもたちが給食を断った際、所長の了承を得て、保育士も余ったおやつを食べていたケースも13保育所であったという。昨年9月、市に内部告発があり、保育所長や調理員ら約120人から聞き取りするなど調査していた。市は今後、マニュアルの見直しや、食材発注の方法を工夫するという。

2013年5月31日／毎日新聞

保育所で調理員給食残飯食べる

西宮市、管理職処分

西宮市は30日、市立保育所23所のうち17所で過去10年間、調理員ら27人が園児に提供した給食の残りを食べていたと発表した。01年の所長会議で残った給食は食べずに処分する取り決めが確認されたが、徹底されていなかった。市は同日、健康福祉局の担当理事ら管理職3人を文書訓告処分とした。

同市人事課によると、昨年9月に「職員が給食の残りを食べている」と情報提供があり、所長や調理員116人から聞き取り調査し、27人が認めた。同市の保育所では、職員は弁当を持参。所長や調理員が給食を交代で食べて味や盛りつけの評価をしているが、残りを食べることは認めていなかった。

2013年5月31日/朝日新聞

余った園児の給食　調理員らが食べる

西宮市立17保育所

西宮市の23の市立保育所のうち17保育所で、調理員や保育士らが、余った園児の給食を食べる不適切な行為をしていたとして、市は30日、健康福祉局の担当理事ら幹部3人を文書訓告処分にした、と発表した。

市人事課によると、昨年9月に市に内部告発があり、全保育所職員から聞き取り調査をした。園児の給食は公費で賄われているが指摘を受けるまで職員には残った分を食べてはいけない、という意識が欠けていたという。

食べていたのは調理員だけで30人近くいるという。ただ、食べたのは欠席した園児の分で、食材を持ち帰るなど悪質なケースはなかったとして、市は調理員ら保育所職員の処分は見送った。

2013年5月31日／読売新聞

西宮市　給食調理員　無断飲食27人

10年間で１７保育所　担当理事ら訓告

西宮市立保育所の調理員が園児の給食やおやつを無断飲食していた問題で、同市は30日、調査結果を発表した。過去10年間で無断飲食が確認されたのは17保育所の27人に上り、市は同日、残食の飲食禁止を徹底しなかったとして、健康福祉局の担当理事(53)と参与(49)、前保育所事業課長（51）を文書訓告とした。

発表によると、27人は調査に対し、余った給食やおやつを食べていたことを認めた。市は｢残食の取扱について、『食べてはいけない』と徹底した周知をしていなかった」として調理員の処分は見送った。

一方、保育士の間でも無断飲食があったとみられるが、市は「人数は調べていない」とした。

納得できぬ個人責任不問

「個人ではなく、残食の飲食禁止を徹底してこなかった組織の問題だ」。園児の給食やおやつを食べていた調理員らを不問とした理由について、西宮市人事部の幹部らはそう繰り返した。2001年度の保育所長会で、残食を食べるのを禁止する申し合わせをしていたが、現場では知らない職員が多かったのだという。「だから仕方がない」という論法に、首をかしげた。

調査前、市には「食材を自宅に持ち帰る職員がいる」「昼食用に当て込んでいる人もいる」などの情報が寄せられたが、市は「本人が否定したため、確証が得られなかった」とした。

一方、市の調査で、ある調理員は「余ると思い、汁物などを事前に自分用に取り分けた」と残食以外も食べていたことを告白。「保育士も含め、全員で余った給食を食べることもあった」と語る保育所長らもいたが、市は既に「個人は処分対象にしない」との方針を打ち出しており、それ以上の追及はしなかったという。

これ以上問題が大きくなることを恐れ、調査も中途半端にしたのだと勘繰られても、仕方のない対応ではないだろうか。

（坂本二郎）